

「浜松子ども館子育て支援アンケート 2003」の報告

—子育て支援ニーズに関する実践的研究—

A Report on "Hamamatsu Children's Plaza Child Rearing Survey 2003" : A Practical Study on the Needs for Child Rearing Support

勝浦範子

文化政策学部国際文化学科

Noriko KATSUURA

Department of International Culture

Faculty of Cultural Policy and Management

福岡欣治

文化政策学部文化政策学科

Yoshiharu FUKUOKA

Department of Regional Cultural Policy and Management

Faculty of Cultural Policy and Management

平成 13 年 11 月、浜松市は、子どものための文化施設として「浜松子ども館」を開館した。我々は開館 2 年目における利用者の状況をしらべるため、平成 15 年 2 月、3 月、子ども館来館者及び近隣在住者（館から 2 km 以内の幼稚園・保育園に登園する子どもを持つ親）を対象に子ども館の利用状況、子どもの生活状況、子育ての状況などについて 2 回目のアンケート調査を実施した。

主な結果は以下の通りであった。利用状況については、来館者の多くは未就園の子どもがおり、平日よりも週末の利用が多い。広い範囲から自動車を使っての来館者が多い。近隣在住者は未利用の場合も 3 割強と少なくないが（31.4%）、来館回数 4 回以上のリピーターも同じくらいおり（30.9%）、身近な施設として近隣住民に利用されている。来館の主な目的は来館者、近隣在住者ともに「子どもを自由に遊ばせる」ことであり、他の子どもとの交流、イベントへの参加期待はそれほど高くはない。親同士の交流については過半数以上が全く期待していない。子ども（末子）の生活状況については近所に遊び場はあるものの、近所の子どもと遊ぶ機会が全くないという回答が来館者では 33.4%、近隣在住者では 47.8%にのぼった。子どもの遊び相手及び母親の近所の話し相手の有無が幼児の発達と関わるというこれまでの研究知見からも、「浜松子ども館」が親子の交流の場としての機能をより強めることが期待される。

This is a report on our second survey which was carried out in February and March, 2003. The purpose of the survey was to evaluate the situation at Hamamatsu Children's Plaza a little over a year after its opening. In other words, how often, and for what purposes people visited the Plaza and so forth. The questionnaire also asked about children's daily life and parents' child rearing environments and concerns in raising children. The subjects of the survey consisted of two groups. One was comprised of the visitors to the plaza. Another group was comprised of the parents whose children attended local kindergarten or nursery schools which were located within 2 km of the Plaza.

The main findings of the survey are as follows. The characteristic user is a family whose youngest child is not attending any schools (institutes) yet, visiting the Plaza by car on weekends. The main purpose of the visits is to let children play freely. Users' expectations that their children will have a chance to play with other children or to participate in events are not very high. Their expectation that they can communicate with other parents is even lower. Among the families of the local school (institute) attendees, about 30 % have not visited the Plaza yet, while about another 30% are frequent users of the Plaza. Concerning the children's daily life, it should be noted that over 30% of the visitors' youngest children don't play with their neighbors, while over 40% of the youngest children of the local residents don't play with their neighbors, although most of them have places to play outside within a 10 minute walk.

It is reported that if a child has friends to play with and if his (her) mother has friends to talk with in their neighborhood, it has a positive effect on the development of the child. Considering the above finding, it is hoped that Hamamatsu Children's Plaza will take a more active role as an institute to insure that both children and parents have a chance to communicate with each other.

はじめに

平成 13 年度、14 年度文化政策学部長特別研究の助成を受けた「子育て支援施設に対する市民ニーズの反映—「浜松子ども館」に関する実践的研究—」については、浜松子ども館、浜松子ども館運営委員会の協力を得て、これまでに 2 回のアンケート調査を実施し、報告書、紀要として 2 度の報告がなされている。平成 14 年 11 月には「浜松子ども館・子育て支援アンケート調査報告書」を刊行した。これは 13 年度に実施した調査（実施時期は平成 14 年 2 - 3 月）についての報告である。なお、この報告書の内容は『教育アンケート調査年鑑 2003 上』（創育社）に転載されている。次の報告は平成 16 年 3 月、静岡文化芸術大学紀要第 4 巻「子育て支援施設に対する市民ニーズの反映—「浜松子ども館」に関する実践的研究」である。この中では、研究の背景・2 回の調査の目的・経緯・アンケートをふまえての浜松市への提言について報告をした。本論文は、平成 14 年度に実施した調査（実施時期は平成 15 年 2 - 3 月）の結果についての報告である。

調査の概要

調査の名称

浜松子ども館・子育て支援アンケート 2003

実施目的

浜松子ども館の開館 1 年を過ぎた時点での、利用者の利用状況、利用目的などを把握する。また、利用者及び近隣在住者の生活状況、意識についても合わせて調べ、これらを通じて、浜松子ども館の現状に対する市民の評価を知るとともに、子ども館が今後果たすべき役割について検討するための基礎資料を得る。

主な質問内容

1. 浜松子ども館の利用状況、利用の理由について
2. 子ども、家庭の状況について
3. 子育ての現状について

実施時期

平成 15 年 2 月下旬から 3 月上旬

実施対象・方法

①来館者調査（利用状況把握のための調査）：浜松子ども館に来館した保護者に調査票を直接配布・回収。

②子ども館近隣調査（子育て状況把握ならびに子ども館の利用状況別に検討するための調査）：浜松子ども館から直線距離で約 2km 以内に位置する保育園 5 園、幼稚園 4 園、および 2 保育園に開設されている子育て支援センター利用の保護者に調査票を配布。いずれも各施設を通じて回収。

配布・回答者数

①来館者調査：配布 800 部、回収 333 部（回収

率 41.6%)。

②こども館近隣調査：配布 812 部、回収 588 部 (回収率 72.4%)。

前年度の調査と同じく「末子が 8 歳以下、回答者が 20 歳以上、50 歳以下で子どもと同居」の条件を満たす回答を有効回答とした。来館者については 308 部、近隣調査では 557 部が有効回答であった。

集計結果

I 回答者の属性

1. 年齢・性別

来館者の平均年齢は 33.8 歳 (SD=4.4)、近隣在住者の平均年齢は 34.1 歳 (SD=4.4) である。性別は女性が大多数である。来館の回答者は女性が 87.3%、近隣在住の回答者は女性が 97.1% である。

2. 職業

来館者、近隣在住者それぞれの就業状況は表 1 に示す。来館者では専業主婦(夫)が過半数を占め、次いでフルタイム、パート又はアルバイトの順である。近隣在住者では専業主婦(夫)、フルタイム、パート又はアルバイトが同じくらいである。

3. 家族の状況

①家庭の形態

三世同居は来館者では 27.6%、近隣在住者では 24.4% である。夫婦が同居しているのは来館者では 96.1%、近隣在住者では 87.8% である。家族の平均人数は来館者では 3.2 人 (SD=1.2)、近隣在住者では 3.2 人 (SD=1.3) である。子どもの平均人数は来館者では 1.7 人 (SD=0.7)、近隣在住者では 1.9 人 (SD=0.8) である。

②末子の年齢・性別・通園・通学状況

この調査では、子どもが複数の場合、末子の生活状況、特に遊びについて質問しているが、来館者の末子の平均年齢は 2.7 歳 (SD=2.0)、近隣在住者の末子の平均年齢は 3.1 歳 (SD=1.8) である。男女比は来館者では男子 41.9%、女子 54.9%、不明(無回答) 3.2%、近隣在住者では男子 49.9%、女子 45.5%、不明(無回答) 4.6% である。就園・就学状況は表 2 に示すが、来館者では未就園児は 58.8% にのぼり、過半数を占めている。一方、近隣在住者の末子の内未就園

児は 24.3% にすぎない。

II こども館の利用状況・利用目的

1. 利用経験・回数

これまでの利用経験・回数は表 3 に示す。来館者では初めてという回答者は 24.0% であり、およそ 4 人に 1 人は開館後、1 年以上経ってから初めて来館した人である。一方、4 回以上のリピーターも半数強の 51.9% にのぼる。近隣在住者では利用経験の無いものは 31.4% である。一方で、来館回数 4 回以上のリピーターも同じくらいおり (30.9%)、一部の近隣在住者はこども館を身近な施設として利用している。

2. 交通手段・所要時間

来館者及び近隣在住者で来館経験のある人の交通手段は表 4 に示す。来館者、近隣在住者ともに最も主要な交通手段は自家用車であり、次いで電車・バスの利用が多い。徒歩または自転車で行くのは近隣在住者でも少数派である。平均所要時間は来館者が 32.7 分 (SD=22.5)、近隣在住者のうち利用経験者の平均所要時間は 16.0 分 (SD=7.0) である。

表 2 回答者の末子の就園・就学状況

就園・就学状況	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
未就園	181	58.8	137	24.6
保育園	39	12.7	246	44.2
幼稚園	70	22.7	168	30.1
小学校	14	4.5	1	0.2
無回答	4	1.3	5	0.9
計	308	100	557	100

表 3 利用経験の有無及び回数

利用経験	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
未利用	0	0.0	176	31.6
1 回	74	24.0	64	11.5
2-3 回	71	23.1	148	26.6
4-10 回	127	41.2	156	28.0
月平均 1-2 回 又はそれ以上	33	10.7	12	2.1
無回答	3	1.0	1	0.2
計	308	100	557	100

表 1 回答者の職業

職業	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
フルタイム	74	24.0	168	30.2
パート又はアルバイト	36	11.7	2	0.4
自営業(経営者、手伝い)	13	4.2	169	30.4
専業主婦(夫)	169	54.9	191	34.3
その他	11	3.6	15	2.7
無回答	5	1.6	11	2.0
計	308	100	556	100

表 4 来館の主要交通手段(未利用者、無回答を除く)

交通手段	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
徒歩	8	2.6	23	4.1
自転車	7	2.3	20	3.6
電車・バス	41	13.3	73	13.1
自家用車	223	72.4	217	39.0
その他	27	8.8	45	8.1
無回答	2	0.6	179	32.1
計	308	100	557	100

3. 利用日：平日中心／週末中心の比較

子ども館を利用するのは平日が多いか週末が多いかを比較した利用日の状況は表5に示す。来館者、近隣在住者ともに週末中心の利用者が最も多い。

表5 利用日：平日中心／週末中心

利用日	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
平日が多い	54	17.5	60	10.8
週末が多い	165	53.6	202	36.2
同じくらい	32	10.4	30	5.4
利用回数が少なくどちらともいえない	48	15.6	84	15.1
無回答	9	2.9	181	32.5
計	308	100	557	100

表6 利用目的（未利用者、無回答を除く）

子供を自由に遊ばせたい	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
大いにあてはまる	264	85.7	271	48.7
少しあてはまる	34	11.0	96	17.2
あてはまらない	4	1.3	10	1.8
無回答	6	2.0	180	32.3
計	308	100	557	100

イベントが楽しい	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
大いにあてはまる	58	18.8	41	7.4
少しあてはまる	134	43.5	178	32.0
あてはまらない	93	30.2	145	26.0
無回答	23	7.5	193	34.6
計	308	100	557	100

同年代の子供がいる	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
大いにあてはまる	68	22.1	64	11.5
少しあてはまる	160	51.9	193	34.7
あてはまらない	67	21.8	112	20.1
無回答	13	4.2	188	33.7
計	308	100	557	100

親同士の交流	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
大いにあてはまる	26	8.4	31	5.6
少しあてはまる	73	23.7	113	20.3
あてはまらない	195	63.3	221	39.7
無回答	14	4.6	192	34.5
計	308	100	557	100

託児	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
大いにあてはまる	15	4.9	11	2.0
少しあてはまる	36	11.7	37	6.6
あてはまらない	241	78.2	317	56.9
無回答	16	5.2	192	34.5
計	308	100	557	100

4. 利用目的

表6は子ども館の利用目的についての回答である。子ども館利用の最大の目的は「子どもを自由に遊ばせたい」ことである。「同じくらいの年齢の子どもがいる」、「プログラム（イベント）が楽しい」ことに対して強い期待は少ないが、期待する声（「おおいにあてはまる」と「少しあてはまる」と合わせたもの）は多数を占める。「親同士の交流」は利用目的としない回答が過半数を占める。託児を利用目的とする回答は少ない。

Ⅲ 末子の遊び・子どもの外出の状況

1. 末子の遊びの状況

表7は末子の遊びの状況である。外遊びをする回数は週1～2回が最も多く、遊ぶ時間は1時間以内が最も多い。外遊びの場については、徒歩5分以内がそれぞれ過半数を占め、10分以内にある場合が多数である（来館者71.8%、近隣在住者72.3%）。調査時は寒い季節であったにもかかわらず、頻繁に（週3回以上）外遊びをする子どもも多く、来館者では、半数近い47.1%、近隣在住者では4割に近い39.5%である。遊ぶ時間は1時間以内が最も多いものの、2時間以内という答えも少なくない。

平日のテレビ・ビデオの視聴時間とテレビゲームで遊ぶ時間については、0～1時間、1～2時間という回答がそれぞれ3割を超えており、2時間を超えるという長時間の回答は少ない。

遊び相手については、近所に遊びともだちが全くいない子どもが少なからずおり、来館者では3割弱（29.5%）、近隣在住者では4割強（41.1%）にのぼる。近所に遊ぶ友達がいっても遊ぶ機会が無いのか、近所の友達と遊ぶ機会の無い子どもは更に多く、来館者では33.4%、近隣在住者では半数近い47.8%にのぼる。遊ぶ回数（遊ぶ機会のある子どものうち）は週1回程度が最も多く、来館者で42.4%、近隣在住者で47.1%である。

近所の子どもよりも、近所以外の子ども（友人の子ども、通園先・お稽古ごと・自主サークル・児童館で出会う子どもなど）と遊ぶ機会の方が来館者、近隣在住者ともに多い。（マクネマー検定、来館者： $\chi^2(1) = 9.33$ 、 $p < .01$ 、近隣在住者： $\chi^2(0, 1) = 66.07$ 、 $p < .001$ ）。来館者では近所の子と遊ぶ機会がある子どもは54.2%、近所以外の子と遊ぶ機会がある子どもは65.3%である。近隣在住者ではそれぞれ42.5%、64.8%である。

遊ぶ回数は週1回程度が多く、その占める割合は来館者で46.8%、近隣在住者で41.9%である。近所の友達、近所以外の友達の両方と遊ぶ機会のある子どもは来館者で41.9%、近隣在住者で31.6%である。一方、どちらとも遊ぶ機会のない子どもは来館者で10.7%、近隣在住者で14.9%である。

以上から、外遊びをする機会が無い子ども、他の子どもと交流する機会が無い子ども、あってもその頻度・時間が少ない子どもが数多く存在することがうかがわれる。また、かつて子どもの主な遊び相手であった「近所の子ども」の存在が「それ以外の子ども」よりも薄いと

表7 末子の遊びの状況

外遊びの日数	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
全くない	24	7.8	41	7.3
週に1-2日	106	34.4	246	44.2
週に3-4日	71	23.1	93	16.7
週に5回以上	74	24.0	127	22.8
無回答	33	10.7	50	9.0
計	308	100	557	100

遊び場への所要時間	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
徒歩5分以内	178	57.8	297	53.3
徒歩10分以内	43	14.0	106	19.0
徒歩15分以内	20	6.5	47	8.5
それ以上	31	10.1	50	9.0
無回答	36	11.7	57	10.2
計	308	100	557	100

外遊びの時間(平日)	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
0-1時間以内	153	49.7	321	57.6
2時間以内	96	31.2	137	24.6
3時間以内	16	5.2	27	4.8
それ以上	10	3.2	11	2.0
無回答	33	10.7	61	11.0
計	308	100	557	100

TV・ビデオ・TVゲームの時間(平日)	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
0-1時間以内	101	32.8	216	38.8
2時間以内	101	32.8	196	35.2
3時間以内	50	16.2	80	14.4
それ以上	20	6.5	19	3.4
無回答	36	11.7	46	8.2
計	308	100	557	100

近隣の遊び友達	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
全くいない	91	29.6	232	41.7
1人いる	45	14.6	90	16.2
2人いる	40	13.0	63	11.3
3人以上いる	98	31.8	125	22.4
無回答	34	11.0	47	8.4
計	308	100	557	100

近隣の子供と遊ぶ機会	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
全くない	103	33.4	266	47.8
週1回程度	87	28.3	137	24.6
週2-3回	56	18.2	77	13.8
週4回以上	24	7.8	23	4.1
無回答	38	12.3	54	9.7
計	308	100	557	100

近隣以外の子供と遊ぶ機会	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
全くない	71	23.1	137	24.6
週1回程度	111	36.0	176	31.6
週2-3回	58	18.8	68	12.2
週4回以上	32	10.4	117	21.0
無回答	36	11.7	59	10.6
計	308	100	557	100

表8 子連れで行く場所

近所の児童公園	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
ない	87	28.2	189	33.9
月1-2回程度	96	31.2	201	36.1
週1回程度	46	14.9	78	14.0
それ以上	39	12.7	24	4.3
無回答	40	13.0	65	11.7
計	308	100	557	100

不特定の児童公園	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
ない	111	36.0	255	45.8
月1-2回程度	119	38.6	200	35.9
週1回程度	31	10.1	23	4.1
それ以上	4	1.3	7	1.3
無回答	43	14.0	72	12.9
計	308	100	557	100

郊外の大型公園	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
ない	96	31.2	186	33.4
月1-2回程度	153	49.7	290	52.0
週1回程度	15	4.9	12	2.2
それ以上	2	0.6	4	0.7
無回答	42	13.6	65	11.7
計	308	100	557	100

児童館・公民館・図書館	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
ない	97	31.5	302	54.2
月1-2回程度	129	41.9	163	29.3
週1回程度	30	9.7	19	3.4
それ以上	8	2.6	5	0.9
無回答	44	14.3	68	12.2
計	308	100	557	100

スーパーなどでの買物	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
ない	6	2.0	10	1.8
月1-2回程度	32	10.4	78	14.0
週1回程度	115	37.3	232	41.6
それ以上	117	38.0	191	34.3
無回答	38	12.3	46	8.3
計	308	100	557	100

大型ショッピングセンター	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
ない	13	4.2	45	8.1
月1-2回程度	111	36.1	219	39.3
週1回程度	110	35.7	184	33.0
それ以上	34	11.0	58	10.4
無回答	40	13.0	51	9.2
計	308	100	557	100

保育園・幼稚園の親子遊び	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
ない	182	59.1	350	62.8
月1-2回程度	48	15.6	98	17.6
週1回程度	21	6.8	19	3.4
それ以上	10	3.2	24	4.3
無回答	47	15.3	66	11.9
計	308	100	557	100

子育てサークルなどの集まり	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
ない	210	68.2	460	82.5
月1-2回程度	35	11.4	17	3.1
週1回程度	21	6.8	22	4.0
それ以上	1	0.3	1	0.2
無回答	41	13.3	57	10.2
計	308	100	557	100

実家・親類・友人宅など	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
ない	30	9.8	63	11.3
月1-2回程度	116	37.7	214	38.4
週1回程度	70	22.7	115	20.7
それ以上	54	17.5	107	19.2
無回答	38	12.3	58	10.4
計	308	100	557	100

子供(上の子の含む)のおけいこ	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
ない	149	48.5	259	46.4
月1-2回程度	8	2.6	27	4.9
週1回程度	74	24.1	138	24.8
それ以上	41	13.4	74	13.3
無回答	35	11.4	59	10.6
計	307	100	557	100

いう結果である。近所の子どもと遊ぶことはあっても週1回程度のことであり、テレビ・ビデオの視聴、テレビゲームで遊ぶなど家の中で一人でも出来ることが、毎日の生活に欠かせないものになっているのである。

2. 末子の外出の状況

表8は回答者が子ども(末子)と一緒に出かける場所についてその有無・頻度(一番近い答を選ぶ)を聞いた結果である。

公園について

まず、公園について近所の児童公園、不特定の児童公園、郊外的大型公園についての質問がある。近所の児童公園は「公園デビュー」と言われるときの公園、つまり利用者同士が顔見知りになる「いきつけ」の公園である。不特定の児童公園は「公園ジプシー」と言われるときの公園、つまり顔見知りのいない公園である。郊外的大型公園は週末に家族連れで行くような子どもにとってやや特別な場である。どの公園でも、「行くことが無い」という回答が相当な数を占めるが、近所の児童公園と不特定の児童公園を比べると「行くことがない」という回答が不特定の公園の方が来館者、近隣在住者ともに多い(マクネマー検定、来館者： $\chi^2(1)=9.14$, $p < .01$ 、近隣在住者： $\chi^2(1)=27.61$, $p < .001$)。近隣在住者では、不特定の公園は郊外的大型公園に比べても「行くことがない」という回答が多い(マクネマー検定： $\chi^2(1)=28.20$, $p < .001$)。

3種の公園の利用頻度を比較すると、「行くことがある場合」には月1-2回程度という答がどの公園でも最も多いものの、やはり日常的に(週1回程度・それ以上)利用されるのは近所の児童公園である(来館者で

27.6%、近隣在住者で18.3%)。不特定の児童公園は来館者で11.4%、近隣在住者で5.4%、郊外的大型公園は5.5%、近隣在住者で2.9%である。来館者、近隣在住者ともに、近所の公園の方が不特定の児童公園よりも日常的利用者が多い(マクネマー検定、来館者： $\chi^2(1)=39.06$, $p < .001$ 、近隣在住者： $\chi^2(1)=54.08$, $p < .001$)。不特定の児童公園と郊外的大型公園を比較すると、来館者、近隣在住者ともに不特定の公園の方が日常的利用者が多い(マクネマー検定、来館者： $\chi^2(1)=11.57$, $p < .001$ 、近隣在住者： $\chi^2(1)=5.14$, $p < .05$)。

以上から、近所の児童公園は他の公園に比べて、日常的に利用(週1回程度・それ以上)する層が他の公園よりも多く、身近な存在であるといえる。しかし、近所の児童公園を日常的に利用するのは全体から見て少数派である。すなわち、親子で日課のように頻繁に近所の公園に行くという生活パターンは一般的ではない。「公園デビュー」の時代から公園へあまり行かない時代になったともいえる。

児童館・公民館・図書館について

児童館・公民館・図書館は、屋内型の公園とも言うべき、子どもを遊ばせることの出来る場所である。その利用の有無及び頻度を見ると、来館者の回答は郊外的大型公園と同じような回答分布である。すなわち、利用しないという回答が約3割(31.5%)であり、利用する場合の頻度は月1-2度が大部分(利用するという回答の76.3%)である。近隣在住者では利用しないという回答が過半数(54.2%)にのぼり、利用する場合の頻度はやはり月1-2度が大部分(利用するという回答の87.2%)である。

買い物について

スーパーや大型ショッピングセンターでの子連れの買い物は極めて日常的であるという結果である。子連れで利用しないという回答は極めて少ない。スーパーについては来館者では日常的に利用(週1回程度・それ以上)するという人が75.3%、近隣在住者では75.9%である。

大型ショッピングセンターについては来館者では日常的に利用(週1回程度・それ以上)するという答えはスーパーに比べて少なく、来館者では46.8%、近隣在住者では43.4%である(マクネマー検定、来館者： $\chi^2(1)=81.18$, $p < .001$ 、近隣在住者： $\chi^2(1)=157.05$, $p < .001$)。

しかし、大型ショッピングセンターの日常的利用を近所の公園の日常的利用(週1回程度・それ以上)と比べると、来館者、近隣在住者ともに、大型ショッピングセンターの方が多(マクネマー検定、来館者： $\chi^2(1)=27.41$, $p < .001$ 、近隣在住者： $\chi^2(1)=72.04$, $p < .001$)。

大型ショッピングセンターの方が近所の公園よりも日常的な存在なのである。

親子遊び・子育てサークルについて

エンゼルプランで推進されている保育園・幼稚園の親子遊び、及び特定の遊び集団に所属する子育てサークルなどの集まりへの参加についてみると、保育園・幼稚園の親子遊びへの参加者は来館者で25.6%、近隣在住者で25.3%である。およそ4人に1人は参加しているのである。子育てサークルなどの参加者については来館者では18.5%、近隣在住者では7.2%であり、保育園・幼稚園での親子遊びへの参加よりそれぞれ少ない(マクネマー検定、来館者： $\chi^2(1) = 5.94, p < .05$ 、近隣在住者： $\chi^2(1) = 80.32, p < .001$)。

実家・親類・友人宅などの訪問について

実家・親類・友人宅などの訪問については訪問することがあるという回答は来館者で77.9%、近隣在住者で78.3%とどちらも8割近い。

お稽古について

お稽古は他の子どもと交流する場としての機能が有り、それを目的の1つにしている場合も少なくない。また、上の子がお稽古に通っていると、末子を連れていくこともよくある。回数を問わずお稽古に末子を連れて行くという回答は来館者で40.1%、近隣在住者で42.9%である。

IV 回答者の生活・心理状態

回答者の生活・心理についての質問項目としては、子

表9 子供を預ける機会の有無・回数

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
身内・親戚等				
ない	57	18.5	102	18.3
突発的なとき	104	33.8	198	35.5
月1-2回程度	35	11.4	60	10.8
週1回程度	21	6.8	58	10.4
それ以上	54	17.5	94	16.9
無回答	37	12.0	45	8.1
計	308	100	557	100
友人・知人等				
ない	212	68.8	379	67.9
突発的なとき	51	16.6	90	16.2
月1-2回程度	6	2.0	12	2.2
週1回程度	1	0.3	12	2.2
それ以上	0	0.0	0	0.0
無回答	38	12.3	64	11.5
計	308	100	557	100
託児施設				
ない	247	80.2	423	75.9
突発的なとき	14	4.6	23	4.1
月1-2回程度	4	1.3	2	0.4
週1回程度	1	0.3	4	0.7
それ以上	4	1.3	34	6.1
無回答	38	12.3	71	12.8
計	308	100	557	100

どもを預ける機会、話し相手について聞いた。ハウスの概念規定によれば前者は子育てに対する道具的支援、後者は情緒的支援にあたる(勝浦, 2003)。最後に、回答者の心理状態については牧野の育児不安の項目(牧野, 1982)を用いた。

1. 子どもを預ける機会の有無・回数

表9は子どもを預ける機会の有無・回数について聞いたものである。やはり頼れるのは身内・親戚という血縁者が多いという結果である。預けるのは「突発的なとき」という回答と(来館者で33.8%、近隣在住者で35.6%)、預けることが定着しているという回答(月1-2回程度、週1回程度、それ以上を含む：来館者で35.7%、近隣在住者で38.2%)が拮抗している。友人・知人は頼むとしても「突発的なとき」に限られる。託児施設の利用者は少ない。

2. 会話の機会・相手・頻度

表10はそれぞれの相手との会話の機会・頻度について聞いたものである。直接会う以外に電話での会話も含めた。回答者の最も主要な話し相手は来館者、近隣在住者ともに配偶者である。次いで主要な話し相手は実の親と友達である。日常的に(週2-3回かそれ以上)話すのは、来館者では友人が57.5%実の親が50.3%である。近隣在住者では実の親が51.5%、友人が49.9%であるが、それぞれ、友人と実の親の間には有意な違いは無い。

近所の人、義理の親がその下に位置する。(実の親、友人と義理の親、近所の人の間にはそれぞれ下記のような有意差が認められた。)近所の人と義理の親を比べると来館者では違いがあるが、近隣在住者では違いはない。

来館者についての有意な検定結果(マクネマー検定)は以下の通りである。

実の親 vs 義理の親 $\chi^2(1) = 19.84, p < .001$
 実の親 vs 近所の人 $\chi^2(1) = 6.34, p < .05$
 友人 vs 義理の親 $\chi^2(1) = 33.56, p < .001$
 友人 vs 近所の人 $\chi^2(1) = 19.21, p < .001$
 近所の人 vs 義理の親 $\chi^2(1) = 4.14, p < .05$

以上から、来館者について日常的な話し相手を多い順にまとめると以下の通りである。

配偶者 > 友人及び実の親 > 近所の人 > 義理の親

近隣在住者についての有意な検定結果(マクネマー検定)は以下の通りである。

実の親 vs 義理の親 $\chi^2(1) = 19.92, p < .001$
 実の親 vs 近所の人 $\chi^2(1) = 37.04, p < .001$
 友人 vs 義理の親 $\chi^2(1) = 20.94, p < .001$
 友人 vs 近所の人 $\chi^2(1) = 36.82, p < .001$

近隣在住者については来館者の結果とは異なり、近所の人と義理の親との間に殆ど違いがない。以上から、近隣在住者について日常的な話し相手を多い順にまとめると以下の通りである。

配偶者 > 友人及び実の親 > 近所の人及び義理の親

表 10 回答者の会話相手・頻度（電話を含む）

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
配偶者とは				
会話なし	2	0.7	5	0.9
たまに	17	5.5	44	7.9
週2-3回	12	3.9	16	2.9
それ以上	263	85.4	438	78.6
該当者なし	10	3.2	38	6.8
無回答	4	1.3	16	2.9
計	308	100	557	100

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
実の親とは				
会話なし	11	3.6	11	2.0
たまに	134	43.5	240	43.0
週2-3回	68	22.1	105	18.9
それ以上	87	28.2	182	32.7
該当者なし	6	1.9	14	2.5
無回答	2	0.7	5	0.9
計	308	100	557	100

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
義理の親とは				
会話ない	30	9.7	42	7.5
たまに	165	53.6	266	47.8
週2-3回	36	11.7	54	9.7
それ以上	60	19.5	123	22.1
該当者なし	15	4.9	59	10.6
無回答	2	0.6	13	2.3
計	308	100	557	100

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
他の身内・親類とは				
会話なし	58	18.8	110	19.8
たまに	192	62.3	323	58.0
週2-3回	33	10.7	48	8.6
それ以上	19	6.2	57	10.2
該当者なし	4	1.3	11	2.0
無回答	2	0.7	8	1.4
計	308	100	557	100

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
近所の人とは				
会話なし	27	8.8	55	9.9
たまに	149	48.5	308	55.3
週2-3回	49	16.0	69	12.4
それ以上	79	25.7	116	20.8
該当者なし	0	0.0	0	0.0
無回答	3	1.0	9	1.6
計	307	100	557	100

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
友達とは				
会話なし	7	2.3	12	2.2
たまに	119	38.6	261	46.7
週2-3回	67	21.8	100	18.0
それ以上	110	35.7	178	32.0
該当者なし	3	1.0	1	0.2
無回答	2	0.6	5	0.9
計	308	100	557	100

職場の人とは	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
会話なし	15	4.9	18	3.2
たまに	15	4.9	41	7.4
週2-3回	8	2.6	25	4.5
それ以上	89	28.9	261	46.8
該当者なし	168	54.5	191	34.3
無回答	13	4.2	21	3.8
計	308	100	557	100

表 11 子育ての不安・ストレス

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
毎日くたくたに疲れる				
よくある	45	14.6	75	13.5
時々ある	137	44.5	270	48.5
ほとんどない	107	34.7	168	30.2
全くない	17	5.5	32	5.8
無回答	2	0.7	11	2.0
計	308	100	556	100

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
考え事が億劫で嫌にな る				
よくある	22	7.1	51	9.2
時々ある	109	35.4	202	36.3
ほとんどない	130	42.2	219	39.4
全くない	44	14.3	78	14.0
無回答	3	1.0	6	1.1
計	308	100	556	100

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
毎日張り詰めた緊張感 がある				
よくある	18	5.8	36	6.5
時々ある	68	22.1	177	31.8
ほとんどない	148	48.1	248	44.6
全くない	69	22.4	90	16.2
無回答	5	1.6	5	0.9
計	308	100	556	100

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
子供がわずらわしい				
よくある	30	9.7	44	7.9
時々ある	141	45.8	252	45.3
ほとんどない	94	30.6	189	34.0
全くない	38	12.3	62	11.2
無回答	5	1.6	9	1.6
計	308	100	556	100

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
子供のことでどうした らよいか分からなくな ることがある				
よくある	34	11.1	42	7.6
時々ある	123	39.9	244	43.8
ほとんどない	119	38.6	211	38.0
全くない	27	8.8	53	9.5
無回答	5	1.6	6	1.1
計	308	100	556	100

	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
子供を置いて外出する のは心配で仕方がない				
よくある	75	24.4	123	22.1
時々ある	108	35.1	196	35.2
ほとんどない	87	28.2	171	30.8
全くない	28	9.1	46	8.3
無回答	10	3.2	20	3.6
計	308	100	556	100

自分1人で子供を育てているという圧迫感を感じてしまう	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
よくある	23	7.5	56	10.1
時々ある	79	25.6	127	22.8
ほとんどない	133	43.2	230	41.4
全くない	70	22.7	137	24.6
無回答	3	1.0	6	1.1
計	308	100	556	100

毎日毎日同じことの繰り返ししかしていないと思う	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
よくある	70	22.7	102	18.4
時々ある	112	36.4	218	39.1
ほとんどない	86	27.9	159	28.6
全くない	38	12.3	71	12.8
無回答	2	0.7	6	1.1
計	308	100	556	100

子供を育てるために我慢ばかりしていると思う	来館者		近隣在住者	
	人数	%	人数	%
よくある	29	9.4	53	9.5
時々ある	136	44.1	200	36.0
ほとんどない	104	33.8	226	40.7
全くない	36	11.7	69	12.4
無回答	3	1.0	8	1.4
計	308	100	556	100

他の身内・親類と日常的に（週2-3回かそれ以上）話すのは来館者では16.9%、近隣在住者では18.9%である。日常的に話す身内・親類はその重要性の順に配偶者、実の親、義理の親であり、それ以外の身内・親類に話し相手がある場合は少ない。

職場の人は該当者無しが多いが、職場がある人は同僚とよく話すという結果である。

子どもを預ける機会および会話に関する結果から、身内・親戚は道具的支援、情緒的支援ともに果たす存在であるといえる。ただし、身内・親戚といっても、その相手は配偶者、実の親、義理の親という狭い範囲であることが多い。友人は主に情緒的支援を果たすが、時には道具的支援を果たすこともある。近所の人が情緒的支援者となっている場合も少なくない。職場のある人は同僚との会話という中で道具的支援を受けていることが考えられる。

3. 子育て不安・ストレス

子育て不安・ストレスについての質問項目は、牧野(1982)による育児不安の項目のうち、否定的な14項目から9項目を選んだものである。表11はそれぞれの項目について「あなたは最近、子育てに関して以下のような気持ちになることがありますか?」と聞いた結果である。

「よくある」という答えが多かったのは「子どもを置いて外出するのは心配で仕方が無い」、「毎日同じことの繰り返し」、の2項目であった(他の7項目との間に有意差が認められた。検定結果は文末注参照)。

「毎日同じことを繰り返し」、「くたくたに疲れる」ものの、「子どもを置いて外出するのは心配で仕方が無い」し、安心して預ける先もないという子育ての現状がうかがわれる結果である。

考察と課題

浜松こども館は開館1年余りを経た2002年12月8日、早くも通算入館者数が30万人を突破し、1日平均の入館者数が800人余りと当初予想の500人を大きく超えてよく利用されている。2倍の60万人を突破したのはその1年5か月後の2004年5月2日であり、利用者数はやや減ってきてはいるものの、子どものための文化施設、特に「子どもが自由に遊べる場」としての役割を十分に果たしている。

「子どもが安心して遊べる場」は様々な子育て支援のうち、最も必要とされているという調査結果があるが(神田・山本, 2000)、これは「子どもを自由に遊ばせたい」という本調査でのこども館の利用目的と合致している。神田・山本の同じ調査では「子どもの友達」、「他の母親との交流」も必要度が高いが、我々の第1回の調査(勝浦・福岡, 2002)でも、子育ての不安・悩みとして「子ども同士で交流する機会が少ない」、「親同士の交流が充分出来ていない」という回答が多かった。1980年生まれの子どもたちを追跡調査した大阪レポート(服部・原田, 1991)によると「一緒に遊ぶ子どもの有無・人数」、「母親の近所の話し相手の有無・人数」は1歳半では言語・社会性の発達レベル、3歳半では身辺自立の発達レベルに影響を与える。母親の求める子育て支援は子どもの発達にとっても大切なことなのである。

こども館に対しては開館間もない2002年度の調査でも、1年過ぎての本調査でも、「親子の交流の場」としての機能はそれほど強く期待されていない。しかし、本調査の結果から、子ども同士の交流も、親同士の交流も充分でない現状は明らかである。そこで、利用者の期待はあまり高くはないとはいえ、子どもの発達上からも必要な子育て支援の機能、つまり「親子ともに顔見知り、子どもには遊び相手、親には話し相手が出るような交流の場」としての機能が高まることが望まれる。これまでもこども館では「赤ちゃんマッサージ」、「リトミック」等様々なイベントを実施しており、多数が参加しているが、今後このようなイベントをより充実することも交流機能を高める1つの方法であろう。

引用文献

勝浦範子(2003) 育児現場での支援の実際、藤崎真知代・本郷一夫・金子利子・無藤隆(編) 育児・保育現場での発達とその支援(シリーズ臨床発達心理学5)、ミネルヴァ書房 96-112。
 勝浦範子・福岡欣治(2002) 浜松こども館・子育て支援アンケート調査報告書
 神田直子・山本理絵(2000) 愛知県内における子育て支援期間の支援と連携のありかたに関する研究(1)一乳幼児を持つ親の、支援機関の認知・参加度と支援欲求についての調査から一 愛知県立大学文学部児童教育学科論集、34、1-13。

服部祥子・原田正文（1991）乳幼児の心身発達と環境—大阪レポート
と精神医学的視点— 名古屋大学出版会
牧野カツコ（1982）乳幼児をもつ母親の生活と育児不安 家庭教育研
究所紀要 No.3, 34-56

注

来館者についての有意な検定結果（マクネマー検定）は以下の通りである。

①「子どもを置いて外出するのは心配で仕方が無い」と7項目それぞれとの比較

「心配」vs「億劫」	$\chi^2(1) = 36.45, p < .001$
「心配」vs「くたくた」	$\chi^2(1) = 11.97, p < .001$
「心配」vs「緊張感」	$\chi^2(1) = 41.44, p < .001$
「心配」vs「わずらわしい」	$\chi^2(1) = 24.05, p < .001$
「心配」vs「わからない」	$\chi^2(1) = 23.21, p < .001$
「心配」vs「圧迫感」	$\chi^2(1) = 32.98, p < .001$
「心配」vs「我慢」	$\chi^2(1) = 25.99, p < .001$

②「毎日同じことの繰り返し」と7項目それぞれとの比較

「繰り返し」vs「くたくた」	$\chi^2(1) = 8.47, p < .01$
「繰り返し」vs「億劫」	$\chi^2(1) = 35.06, p < .001$
「繰り返し」vs「緊張感」	$\chi^2(1) = 37.88, p < .001$
「繰り返し」vs「わずらわしい」	$\chi^2(1) = 22.22, p < .001$
「繰り返し」vs「わからない」	$\chi^2(1) = 17.51, p < .001$
「繰り返し」vs「圧迫感」	$\chi^2(1) = 35.27, p < .001$
「繰り返し」vs「我慢」	$\chi^2(1) = 26.68, p < .001$

近隣在住者についての有意な検定結果（マクネマー検定）は以下の通りである。

①「子どもを置いて外出するのは心配で仕方が無い」と7項目それぞれとの比較

「心配」vs「億劫」	$\chi^2(1) = \chi^2 = 35.03, p < .001$
「心配」vs「くたくた」	$\chi^2(1) = 16.23, p < .001$
「心配」vs「緊張感」	$\chi^2(1) = 55.31, p < .001$
「心配」vs「わずらわしい」	$\chi^2(1) = 43.84, p < .001$
「心配」vs「わからない」	$\chi^2(1) = 51.13, p < .001$
「心配」vs「圧迫感」	$\chi^2(1) = 35.57, p < .001$
「心配」vs「我慢」	$\chi^2(1) = 35.00, p < .001$

②「毎日同じことの繰り返し」と7項目それぞれとの比較

「繰り返し」vs「くたくた」	$\chi^2(1) = 5.24, p < .05$
「繰り返し」vs「億劫」	$\chi^2(1) = 23.77, p < .001$
「繰り返し」vs「緊張感」	$\chi^2(1) = 39.49, p < .001$
「繰り返し」vs「わずらわしい」	$\chi^2(1) = 31.54, p < .001$
「繰り返し」vs「わからない」	$\chi^2(1) = 35.16, p < .001$
「繰り返し」vs「圧迫感」	$\chi^2(1) = 20.88, p < .001$
「繰り返し」vs「我慢」	$\chi^2(1) = 25.60, p < .001$